

# 第4回島田市都市計画マスタープラン等 まちづくり市民会議 議事要旨

◆日時：平成30年10月25日（木）18：45～20：50

◆場所：島田市役所会議棟 2階会議室

◆出席者：

○まちづくり市民会議委員（15人）

区分	氏名	職業等（所属）	備考
公募	権田 真知子	自営業（ヨガイストラクター）	
	荒井 浩介	会社代表（（株）荒井建築計画事務所）	
	戸塚 康之	会社役員（（有）アスカエンジニアリング）	
団体推薦	佐久間 章次	島田商工会議所	会長
	木村 恭輔	島田青年会議所	※欠席
	鶴川 忠章	島田市社会福祉協議会	
	新聞 康博	島田市自治会連合会	副会長
	太田 拓男	島田市自治会連合会	
その他	北川 有香	男女協働参画啓発推進委員	
	田代 紗莉依	静岡県立大学 薬学部	※欠席
	鈴木 悠	静岡福祉大学 社会福祉学部	
市職員	堀崎 大二朗	地域生活部 協働推進課	
	北川 未奈子	行政経営部 人事課	
	安達 佑美	教育部 社会教育課	
	杉浦 元紀	支所 川根地域総合課	

（事務局）：島田市都市基盤部

都市政策課 大畑課長、平松課長補佐、大池係長  
遠藤主査

（事務局補助）：株式会社オオバ名古屋支店 小柳、丸山

（傍聴者）：1名

## ◆会議次第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議題
  - (1) 全体構想について
    - ・都市づくりの視点について
    - ・都市の現況・特性の調査分析について
    - ・市民等意識調査結果について
    - ・都市づくりの課題の整理について
    - ・都市の将来像について
4. その他
5. 閉会

## ◆配布資料

- ・全体構想資料
- ・アンケート結果概要
- ・アドバイザーヒアリング結果



■議事要旨

項 目	意見概要 (⇒は事務局回答)
第1章 都市づくりの視点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7つの視点を5つの視点に絞った理由は何か。変える理由があれば、次のまちづくりに反映させるきっかけになると思う。</li> <li>⇒計画全体の流れが通るように、項目を集約して分かりやすくしたものであり、何かの視点を削除したわけではない。</li> </ul>
第2章 都市の現況・特性の調査分析について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園緑地の供用率20%で、県下23位は、大井川の河川敷公園等を含めたものか。</li> <li>⇒河川緑地も含めたもの。計画面積は大きいですが、供用率は低いのが現状。</li> <li>・島田市の「強み」「弱み」がまとめられているが、変化という視点で平均的な印象がある。島田市として特筆すべきところがあるか。</li> <li>⇒参考資料に、レーダーチャートで他都市との比較がある。そこから読み取れるところはあるが、注意が必要。</li> <li>・財政力指数が他都市より低いのは、市民税が少ないということか。</li> <li>⇒財政力指数は公共サービスに対する一般財源で賄える自治体の体力を示したものの。</li> <li>・レーダーチャートに関しては、アドバイザーからの否定的な意見もあり、どう判断してよいのか分からない。「強み」「弱み」の部分も、具体的な“固有名詞”などに置き換えていく方が今後の議論としては分かりやすくなるのでは。公園の供用率が低くても「大井川マラソン」などのように活用されていれば「強み」の要素になるのではないか。</li> <li>・島田市は小学校の耐震化に早くから取り組み、耐震化率など県下でNo.1であったこと。そんなことも評価できるといい。</li> <li>⇒今回の資料は、客観的なデータに基づき、現状を理解してもらい、島田市の立ち位置を見てもらおうというもの。これまで「自然がいっぱい」と定性的に表現されていたこと、先程の「大井川マラソンで活用されている」ということなど、多くの市民に納得してもらえるように、客観的な数値で示せたらよいと思う。</li> </ul>
第3章 市民等意識調査結果 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回のマスタープランのアンケートと同じ質問があれば、その結果と比較してみれば何か変化がつかめるのではないか。</li> <li>⇒前回のアンケートは一部の地域しか行っておらず、また、質問も前回と違うため、比較できない。</li> </ul>
第4章 都市づくりの課題の 整理について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どういう施策をするにもお金がなければ進まない。財政力を強化する項目が何もないのはどうか。</li> <li>⇒働く場の創出や産業のブランド化など、財政力に結びつくことを課題として整理している。</li> <li>・一番大きな課題は、財政力が減っていくこと。それをどう立て直すかが一番重要なテーマだと思う。見える化すべきである。</li> <li>・観光、商業、工業の活性化をすることで、財政が豊かになるので、今の記述のままでも良いのでは。</li> <li>⇒財政力、体力を高めていくという狙いをもっと分かるように考えたみたい。資料の作成途中では“稼ぐまち”という意見もあった。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“稼ぐ”の方がいい。もう後が無いという危機感をどこかで持たないといけない。人口が減ることは明らかなのだから。</li> <li>・人口が減少するのは、あくまでも将来予測なので、それを変えるようなことをこの会議で考えるのではないか。</li> </ul> <p>⇒人口が減少することは避けられないことは事実として捉えてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「居住」とか「住む」ということは、以前とはずいぶん様子が変わっている。1住居に1家族が当り前では無く、住居が施設化している。従来のやり方で、まちづくりや都市計画を進めて良いのか疑問。前提となっている“まちの状況”が反映されていないのに、今までのやり方でよいのか。</li> </ul> <p>⇒今回は今までのやり方ではなく、市民会議で「ありたい姿」という視点で議論を進めてきた。本来は、現況の課題から導き出される「目指すべき姿」のモデルを考えていくところを、平行して「ありたい姿」を盛り込んでいる。「住む」ということは“にぎわい”の元になり、活力にもつながっていくので、その視点は大変重要なこと。この後の「都市の将来像」の具体的な施策として、今後の市民会議で検討していきたい。人口が減っても高齢化率が高くなっても、まちがにぎわって楽しめる活力あるまちをつくっていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来的には藤枝市や焼津市とも絡めたまちづくりが必要だと思うが、現段階で藤枝市や焼津市との連携はあるのか。新しい市民病院など、医療などでも連携を考えているのか。</li> </ul> <p>⇒様々な分野ごとでの交流、連携などはある。広域幹線道路などは県の土木事務所が中心になって連携して進めている。医療についても、2次医療圏として役割分担をしながらやっっていこうとしているが、現実のところは、お互いの機能を補完しあっている範囲。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財政難のことも含めて、藤枝市、焼津市と連携して、費用分担をし、この地域全体の人口が増えればよいのでは。</li> </ul> <p>⇒広い視野で捉えることは大切で、どの市も賛成だと思う。ただ、自分の所が一番になりたいという思いもあり、文化施設なども他所を借りれば良いとはなりにくく、難しいところもある。とは言え、人口が減少し、財政力が落ちていく中では、どうやって今の暮らしを維持していくかという視点で、広域の中で分担していくという考え方は重要。</p>
<p>第5章 都市の将来像 について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民アンケートの「今後の居住環境」で「住み続けたい」という意見が69%ある。それが、都市構造図にどのように反映されてくるのか。</li> </ul> <p>⇒「コンパクトなまち」と言っても、住む場所を1箇所に集約するわけでもなく、今の場所に住み続けることは可能。まちの機能を維持していくために、拠点の所に都市機能を集約していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口が減っていく集落は、全部消滅していくという考え方に聞こえる。「住み続けたい」という理由は聞いているか。</li> </ul> <p>⇒「移りたい」人の理由は聞いているが、「住み続けたい」人の理由は聞いている。回答者の居住地区と年齢は分かるので、クロス集計して分析をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市構造図のスケール、精度はこれでよいか。森林・農地ゾーンにも住むところや拠点があり、一つのレイヤーでは表現できない複数の情報が必要ではないか。</li> </ul>

⇒細かな部分については、来年の「地域別構想」の中で作っていききたい。今回は「全体構想」なので、このスケールとなるが、より分かりやすいように「イラストマップ」（今回資料で下書き提示）を、作成していききたい。

- ・非常にたくさんのデータなので、時間をかけて課題の整理表とかを読んでいききたい。
- ・この中では、市民会議でも議論があった“最先端の技術”のことが取り入れられていない。そうした発想に立っていない。このプランでは、集落が全部消滅してしまいそうな気がして心配である。

⇒コンパクトシティの考え方の中では、まちが持続していくため、都市機能を拠点に集約して維持させることで、周辺の集落が維持していただけることになると思う。

- ・今のロジックは、中心市街地も中山間地も同じと考えてよいか。

⇒求められている役割は違うと思う。コンパクトシティで有名な富山市では、中心市街地が元気だからこそ、周囲の集落が保てると言っている。都市の財政力は、結局は税金なので、その税金を生む活力になる所が中心市街地であり、その周りの集落と市全体が維持できるようになるので、中心市街地の役割は大きいと思う。

- ・中心市街地に拠点が幾つかあって、そこに投資していくイメージか。
- ・同じ教育が受けられ、同じ医療が受けられる、同じ価値観を得られることが都市機能と考えると、離れた所でも、今の情報通信技術で実現できれば、都市機能とは何かという気がする。

⇒情報技術が発達する都市をスマートシティと言う。コンパクトシティで都市機能などを物理的に集約することより、スマートシティと言われる技術の革新の方が速く進むと思う。ただし、市民会議で「ありがたい姿」でも言われていたそうした技術革新は、いつどうなるかを示すことが難しく、どのように計画に反映させるかは難しいところ。

- ・人口が減っていく中でも、「住み続けたい」人が7割ぐらいいるということなので、市外から流入とか、人口を増やすことを考え、活力あるまちとか、自然に憧れてきてくれる人とか、子育てしやすいまちだからとか、いろいろな理由でPRして、人口減少に歯止めがかかれば良いと思う。
- ・人がそこに住みたくなくなる理由の一番は人間関係だと思う。でも、この会議は、まちを作って、島田市でやっていききたい、住み続けたいという市をどうやって作るかという目的をしっかりとした方が、議論が進みやすいと思う。

⇒都市マスタープランは、都市計画の分野でのマスタープランであるため、主には土地利用について考えていくことになる。もちろんコミュニティとか住みやすさとかは視野に入れていくことになるが、その基となる都市の基盤はどうあったらいいのかが中心になると思う。

以上